

令和3年度第1回北海道立函館美術館協議会（書面開催） における意見等

1 北海道立函館美術館協議会委員

仲井会長、木村副会長、石岡委員、今村委員、佐藤委員、川島委員、小宮委員、武井委員、梨木委員、西本委員、川村委員、三浦委員

2 議 事

(1) 報告事項

ア 令和2年度事業実施状況について

- ・委員：コロナ禍であっても、感染状況に対応した運営ができていると考える。昨年10月のリサ・ラーソン展の期間中、展覧会に伴う各取組が充実しているように思う。
- ・委員：コロナ禍で中止等になるのは残念だが、こういう状況で特別展「やなせたかしの世界」の開催日数が10日だったにもかかわらず、観覧者数が多かったのは、予定していた日数なら相当数見込まれたらと改めて残念に感じた。
- ・委員：各事業の体験人数を見るに、やはり体験型参加型のプログラムの人気が高いようだが、コロナの関係で縮小せざるを得ない状況なのが辛いところだと感じる。終息が1年先なのか数年かかるのか見通せない今、「コロナ禍の美術体験」をより積極的に考えていかなければならないと思った。
- ・委員：コロナ禍にあって予定していた事業が思うように実施できなかったことを考慮すると、各種事業の参加人数の低減など、やむを得ない状況だと思う。
- ・委員：新型コロナのため、観覧者が大幅に減少してしまったのは残念だった。そういう中での職員の皆様の御尽力御努力の労は多しと思う。当面続くwithコロナの中で、できるだけ多くの人に足を運んでいただけるよう、さらに工夫をお願いする。
- ・委員：後半の2つの収蔵品展は内容の説明ではなく、もっと目を引くようなタイトルを付けることを考えても良いと思う。
- ・委員：新型コロナウイルスによる中止や休止がある中で、良い結果だと思う。

イ 令和2年度道立美術館評価に係る評価結果について

- ・委員：【基本的運営方針】「D活動の基礎となる調査・研究の推進」の評価が「C」に修正になったのは、適確な判断だと考える。現在の状況下で、評価の項目自体を見直すような道教委の動きがあるようなので、改正に期待する。
- ・委員：購入と受贈の収集で所蔵作品が増えたのは、函館美術館の財産が増え、活用の楽しみが広がって良かった。財産は保管や点検が大事。「保管状況の適切さ」での評価「b」は良かった。
- ・委員：【基本的運営方針】「C豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供」について、ホームページのアクセス件数が目標を大きく上回っていたとのことで、掲載方法を何か工夫されたのか、目標値を超えた理由を伺いたい。
- ・事務局：ホームページについては、アクセス件数を増やすための特別な工夫は行っていないが、これまで掲載内容の改善に取り組むとともに、展覧会や教育普及事業に関する情報の積極的な発信に努めてきたほか、SNSで情報発信する際、必要に応じて「詳細はこちら」などとして当館ホームページのアドレスも併記しており、こうした地道な取組がアクセス件数につながっているものと考えている。
なお、本年7月から新ホームページを公開しているが、旧ホームページ上にも新URLを掲載し、すぐに新ホームページにアクセスできるようにしている。
- ・委員：「常設展示への興味・関心を高める」という点について、美術というのは知識があるとより深く味わえるものと思うが、残念ながら（展示されている作品・作家の）知名度が高いとは言えないと思う。まして、「書」というジャンルなら、なおのことであろう。収蔵されている作品や作家の魅力を、より広く発信してほしいと感じた。SNSはもちろん

だが、SNSは「興味がある人が能動的にアクセスするもの」なので、例えば、新聞やpeeps等のタウン誌でコラムをのせてもらったり、小・中・高校で講演、紹介していただけたらと思った。

- ・委員：活動の基礎となる調査・研究の推進については、閉館の期間が長かったこともあったので、工夫して活動してほしい。
- ・委員：【基本的運営方針】「F良好な滞在環境の提供」のうち、ホスピタリティーは達成率100%を超え、コメントでも満足度が高いことが伺える。
- ・委員：評価は主に「C」となっているが、新型コロナウイルス感染対策の面から仕方がないと思う。

(2) 協議事項

令和3年度運営計画について

- ・委員：学校教育支援事業で、市立函館高等学校の地域探究型学習が年2回から令和3年度は年3回となるなど、当館・高校の意気込みを感じる。地域との連携については、かなり精選した内容となっているが、感染症の終息が見えない現時点では適切な計画だと思う。
- ・委員：今後中止となる事業・イベントがなくなり、観覧者にとって楽しみに足を運んでもらえることを願っている。特別展「魔法の美術館」のように超体感型の展覧会は、今までこのような企画はなかったように思えて、子どもから大人まで楽しめた。こういう展覧会を時々企画してほしい。
- ・委員：コロナ禍にあつて新たに企画などは難しい状況とは思いますが、美術鑑賞や芸術・文化情報の発信は意義深いものがあるので、下半期には、各種の制限も緩和されることを望みながら、臨機応変な対応を望む。
- ・委員：コロナ収束の見通しの立たない中、職員の方々は大変であろうが、時間を有効に使えるように工夫していただければと思う。
- ・委員：西洋版画の魅力は、令和3年度の展覧会の中で目玉のようなものだったと思うので、期間が短くなったのは、大変残念だったと思う。ただ、その後の展覧会には期待ができる。

(3) その他

各種情報提供事項 など

- ・委員：屋外で、他の関係機関や施設、団体とコラボした企画ができると素敵だなと思う。
- ・委員：自治体レベルでもテレカンファレンス（遠隔会議）が一般化している。本協議会についてもコロナ禍においてはテレカンファレンスによる開催を検討願う。
- ・委員：ホームページがリニューアルされ、情報収集しやすくなり、美術館と展覧会に興味を持つ人がこれからもっと増えることを期待する。
- ・委員：新型コロナウイルス感染症については、未だ終息の兆しが見えない状況だが、ホームページやSNSを広く活用されていることは、このコロナ禍において、非常に有効であると感じた。地域で函館美術館を訪問し観覧予定であった「魔法の美術館」も今回は観覧できなかったが、子どもたちがとても楽しみにしていたため、また今後のイベントも心待ちにしている。
- ・委員：今回初めて協議会に参加することになり、初の開催が書面とのことで、実際にお話を伺う機会も持てなかったため、本当に「一市民の意見」になり恐縮している。函館美術館は五稜郭公園と隣接する立地にあるので、例えば、根津美術館が庭に燕子花（カキツバタ）が咲く時期に燕子花屏風を展示するように、多くの方が公園を訪れる桜の季節に、桜であったり、もしくは箱館奉行所や歴史にまつわる展覧会など、美術館と公園と函館がリンクするようなイベントをしてほしいと思っている。
- ・委員：オンライン（ネット環境）を用いた動画講演会や情報の発信、展覧会の紹介など、多彩な情報発信の手法も心掛けてほしい。
- ・委員：キャッシュレスで便利になるのは良いこと。ただ、道単独かどうかは利用者にはあまり関係ないことなので、今後すべてで使えるようになることを望む。

- ・委員：美術館評価の基準が一定になるのは良いと思う。
- ・委員：協議会の書面会議は会議になっていないと思う。既に社会に浸透した Zoom 等にすべきではないか。
- ・委員：魔法の美術館は夏休みにぴったりの展覧会だと思う。子どもや若者が美術館に足を運ぶきっかけになっただろう。
- ・事務局：委員の皆様からいただいた御意見・御提案については、できるところから取り組んでまいりたい。